



hito\*yume  
インタビュー

# 菊川 怜

巻頭特集

現役東大生で芸能界デビュー。  
すらりとしたスレンダーなボディ、艶やかな笑顔、凛とした強い瞳、  
まさに才色兼備と呼ぶにふさわしい女優、菊川怜さん。  
ドラマ、映画、CMなどに出演する一方で、キャスターとしてもキャリアを確実に積んできた。  
大の数学好きでも知られる菊川さんに、理系学問に対する思いや受験勉強のコツを聞いた。

【きくかわ れい】  
1978年生まれ。埼玉県出身。東京大学工学部建築学科卒業。大学在学中の1998年、東レキャンペーンガールに選ばれる。その後、女優、キャスターなど多方面で活躍。2012年7月からCX系列「とくダネ!」(月～金 朝8時)キャスターとして出演中。  
<http://www.oscarpro.co.jp>



子ども3人に1人がスマートフォンを持つ時代です。

## だいじょうぶですか?

情報モラルやリテラシー、ネットのマナー

# 情報活用トレーニング ノート

※「情トレ」とお呼びください。

対象学年：小学校3～6年／中学校1～3年

PCで、タブレットで、端末やOSを問わず  
情報モラルやリテラシーが学習できる**体験型**デジタル教材!

### 体験する



デジタルドリル(タイピングや情報活用クイズ)を用意しました。  
空き時間には自分のペースで熱中できます。

### 考える



### 読む

要点をマンガや図表を用いてやさしく解説しました。

### まとめる



クラスみんなで  
ワークシートを共有できます。

## インストール不要ですぐ利用できます!

仕様・動作環境

対象学年：小学校3～6年／中学校1～3年

価格：450円(税込)／児童生徒1人当たり1年間使用ライセンス

提供方法：インターネットで教材を配信し、学習するサービスです。

端末機：PC、タブレットなど端末を問わずご利用いただけます。

推奨OS・推奨ブラウザについてはWEBでご確認下さい。

開発

監修：石原一彦(岐阜聖徳学園大学教授)

開発：株式会社文溪堂／株式会社コンセント

お問い合わせ 株式会社文溪堂

くわしくは **ぶんけい 情トレ** で検索



小学1、2年の頃から算数が好きでした。  
問題を解くのが楽しくて仕方なかったですね。



# 小学校1・2年生のときの先生が、考えることの楽しさを教えてくれた。

## 自然と戯れるのが大好きな女の子だった

まずは、幼少の頃のお話を伺いたいと思います。小学生時代の菊川さんは、どんな女の子でしたか？

外で遊ぶのがすごく好きでした。クラスの中ではそんなに目だつほうではなかったですね。率先してクラスのことをやったり、みんなを仕切ったりするより、自由気ままに好きなことをしているタイプの女の子でした。

外の遊びというと、縄跳びとか、追いかけて遊ぶことか？

はい、そういう遊びももちろん好きでしたが、自然にも興味があったので、山ブドウを採ってきて、すりつぶして色水をつくったり、オシロイバナの種を集めて、種の外側をむくと白い粉が出てくるんですけど、その粉を集めたり、お花で首飾りをつくったりしていました。

あとは、探検が好きでしたね。探検というの大げさかもしれませんが、トカゲや昆虫を捕まえるのが得意でした。小さいトカゲって、すばしっこいじゃ

いるんです。自分の頭で考え、こうやれば解けるんだってわかる喜びを体験したことで、算数がどんどん好きになっていきました。公式を詰め込み、解答しただけでは考える力に身につかないということですね。「できれば数字を避けて通りたい」と思う大人の数字アレルギーが多いのも、そうした影響があるのかもしれないですね。

公式は手段、道具であって、本質ではないということだと思います。公式にたどり着くまでがむしろ重要で、AからB、BからCと、数学的理論を重ねていく道筋が、私としてはすごく好きだし、楽しいと感じるんです。それから、数学は理詰めのようにしていて、想像力も大切な要素です。あれこれと考えをめぐらせて、複雑な問題が解けたときは、まさに快感(笑)。あとは、「なんで?」「どうして?」と思う好奇心も必要です。私は小さい

ないですか。だから、捕まえるのが難しいんです。芝生にツツジの木が植わっていて、たいていその下にいますけど、ふだんは出てこないんですよ。でも、1時間のうち何回か思い出したように顔を出す。その瞬間をジッと何時間も待って、やっと捕まえられるときは、すごくうれしいんです(笑)。

男の子のような一面があったのですね。ちよつと意外です。

両親が土日にテニスをしていて、終わるまで一日中待っていないといけなかったんで、ほかに工夫しているいろんな遊びを考えました。

お友達や妹と鳥を捕まえる罠をつくって、お菓子を置いてみたこともありました。そういうえば、一回だけ引っかけたことがあったなあ(笑)。

かなり凝ったのは泥団子づくりです。テニスのクレーコート用の土が盛ってある場所があったんですが、どれだけ固い泥団子ができるか、みんなで競争するんです。水の配合とか、砂の混ぜ方とか、泥の成分も「このあたりの土がいい」とか言ってこだわって。なんでも突き詰めるのが好きだったのかもしれないですね。

頃から人一倍「なんで?」が多くて、周りの大人たちや先生にとってはうるさい存在だったと思いますが(笑)、自分から攻めていって、根本から納得できれば、どんな問題も怖くなくなりま

す。そうやって、うまく軌道に乗れるといい点数が取れて、ますます勉強が好きになる。これは数学に限らずいえることですが、私はたまたま数学でそういう出会いがあったのだと思います。

先生を質問攻めに行っている菊川さんの姿が浮かんでくるようですね(笑)。特に印象に残っている先生はいらっしゃいますか？

中学生の頃、通っていた塾の数学の先生の話は、今もよく覚えています。どの塾にもカリスマ的な先生はいると思いますが、その先生は、中高の枠に捉われず、ときには大学でしか教えないような例外的な解法まで示してくれました。それがまたひきつけられる内容で、とにかくおもしろかったですよ。そこは東大を受験しようという人たちが多く通っている学習塾だったこともあり、授業の進行速度も速く、難しかった。でも、先生の話がおもしろい

## 公式は手段であって本質ではない

お話を伺っていると、当時すでにリケジョ(理系女子)の片鱗をのぞかせていたのですね。算数はその頃から得意だったのですか？

そうですね、小学校に上がってからは、小学校1・2年生のときの先生で、自分で考える楽しさを教えてくれたことが大きいと思います。

普通は、先に公式などを覚えさせて問題を解かせますよね。でも、その先生の場合は、ヒントをちよつとずつ出しながら、子どもたちに考えさせて答えを導くような授業だったと記憶して



小学校高学年  
社会科学見学でのお弁当の時間。

から一生懸命ついていこうと思ったんです。難問をクリアしたときは本当にうれしくて、「やればできるんだ!」って自信にもなりました。要は、相性がよかったです。

そうなる、学校の成績も上がって、もつと上位を狙おうという意欲も出てきます。ゲーム感覚と言ったら不謹慎かもしれませんが、やればやるほど手応えを感じるようになりました。

## 一問一問でいねいに解くクセをつけた

次に、東大に現役合格された菊川さんに、受験勉強の「コツ」について伺います。菊川さんは、女開成とも呼ばれ、首都圏トップの女子受験校である桜陰中学・高校のご出身ですが、早いうちから東大を目指していたんですね。

そうですね、自然の流れというか、東大進学率が高い学校だったので、環境がそうさせたのだと思います。高校時代はまだまだ未熟で、自分の人生を組み立てる力なんて、私にはありませんでしたから、もちろん猛勉強しましたが、受験校



については、みんなが受けるから私も……という感じでした。

その結果、東大理Iをはじめ、慶応大学医学部、早稲田大学理工学部と、みごと合格されています。難関を突破したいちばんのポイントはどこだと思われませんか？

いちばん気をつけたのは、ちゃんと理解できたか？自分が納得したか？ということですね。

私はもともと「覚える」のは得意ではありません。答えを解く考え方がわかって、初めて「自分が理解した」ことになるんですね。そこをおろそかにしてしまうと、頭に定着しないと思って

高校3年生、卒業間近のお別れ式。



いたので、自分で納得するまでそこから一歩も動かないつもりで、問題一つひとつを細かく、ていねいに解くクセをつけました。教科書や参考書にたくさん書き込みもしましたね。

範囲が膨大だったので、大変は大変でしたが、受験勉強中は、落ちたらどうしようなんてよけいなことは考えず、ただ目の前の勉強に集中していたという感じです。

どんな勉強法を心がけましたか？

塾の先生からは、集中力は1.5時間しか続かないから、1.5時間単位で休憩を取るようアドバイスされましたが、そこは私には当てはまらなくて、集中の波に乗っているときは、行けるところまでガッツと続けるやり方でした。

ただし、私は寝ないとダメなので、徹夜は絶対にしませんでした。体調管理も受験勉強を支える大きな柱の一つ。それに、朝までだらだらやると、かえって効率が悪くなるとわかったの。

あとは、できるだけ自習室で勉強するようにしました。家で一人で勉強すると、どうしてもテレビを見たり、マンガを読んだりしてしまいがちですが、仲間でもあり、ライバルでもある人た

やその影響もあったのでしょうか？

それも少しあったと思います(笑)。手塚先生が大阪大学医学部出身ということで、描写も専門的でおもしろかったですし、物語も決して勧善懲悪ではなく、哲学的にも倫理的にも考えさせられる内容に引き込まれて、何度も何度も読み返しました。

でも、医師という職業を選ぶまでに、はいたらなかったと。

はい。私自身が優柔不断だったというか、まだ世の中のことを何も知らない時点で自分の将来を選ぶことにためらいがあったんです。数学や物理が得意だというと、自分が何をやりたいのかは、まったく別の問題で、その大事な部分を見いだせていなかったんですね。

それに、受験に合格するために受験勉強をするような環境にいたので、だから、とりあえず東大に入ってみてから将来のことをゆつくり考えてもいいんじゃないかって。

教養学部を経て工学部建築学科を選んだ理由も、正直に言えば、そこまでピンときていたわけではないんです。

ちと同じ空間に身を置くことで、「みんなががんばっているんだから、自分もがんばらなきゃ」と、自然に集中できたんです。そうやって、モチベーションを維持しました。

東大に入って将来のことをゆつくり考えたかった

なるほど、「受験はこつあるべき」といったセオリーに惑わされず、自分のペースを守ることが大事ですね。プレッシャーに強い人の極意が少しわかったような気がします。

ところで、東大、慶応医学部、早稲田理工学部と、いずれも超難関を突破しながら、最終的に東大に決めた理由はなんだったのですか？

お医者さんもいいかなと、たしかに迷いました。人の命を助けたいという高尚な理由があったわけではありませんが、子どもの頃から純粋に人体の仕組みや組織に興味がありましたの。

そういえば、菊川さんは高校時代、手塚治虫さんの『ブラック・ジャック』が愛読書だったと伺っています。もし

た。それで、両親に相談したところ、「だったらあなたの思うようにやってみなさい」と。

その時点で、建築家になるという選択は自分の中ではなくなりました。仮に芸能界に入らなくても、建築関係には進まなかったでしょう。もしかしたら、当時はやり始めていたCG(コンピュータグラフィック)デザイナーを目ざしていたかもしれません。

自分がやってきたことに、なにひとつ無駄はない

今や芸能界を代表する理系女子として



芸能界のお話をいただいたとき、初めて自分の内側から「やってみたい!」と思う気持ちがわき上がってきました。

自分で納得するまでそこから一歩も動かないつもりで、一問、一問、取り組みました。

て活躍されている菊川さんですが、女優業をするうえで、理系学問を突き詰めてきた経験が今に役立っていると感じることはありますか？

うん、どうでしょう。例えば、台詞覚えなどは理系学問がというより、慣れや気合いのほうが重要ですし、知らず知らずのうちに理詰めで考えるクセはついているかもしれませんが、それも無意識のことなので、具体的にはあまり思いつかないですね。すみません(笑)。

いえいえ。ただ、そうはいっても、





大学時代に勉強されたことが、今に生きていることもあると思います。

もちろんそうです。例えば、私が大好きだったル・コルビュジエの設計した建物を巡る番組を担当させていたときは、本当に楽しかった！

ル・コルビュジエの作品は、機能や構造を重視した四角い形状で知られていますが、それを知っていると、実際に観るのは全然違います。

建物の中に入ってみると、光の差す角度ひとつとっても、彼が何を考えてこの形をつくったのか、建築家の頭の中身が見えてくるようで、「ああ、貴

重な体験をさせてもらった！」と思いましたね。

建築物に限らず、絵画などでも、圧倒的な作品は観ただけで心を奪われるようなパワーをもっているものですが、この人の何がすごいのかというベースの部分を知識としてわかっていると、より深く楽しめるんだなというのが実感です。

そういう意味では、自分がこれまでやってきたことは、なにひとつ無駄ではなかったということですね。

**反対に、学生時代にもっとやっておいたほうがよかったですと思うことはありますか？**

そうですね、私の場合は、自分が伝えるというより、視聴者のみなさんと一緒に番組に参加しているといったほうが近いかもしれません。

でも、私自身が関わることで、多くのおみなさんが世の中のことへ納得できたり、腑に落ちたりすれば、これほどうれしいことはありません。

最近では、日本列島を津波や高波から守る「防潮堤」について取材しました。東日本大震災以降、その「壁」の高さをどうするのか、国や有識者によってさまざまな議論がなされていますが、

実際に現地の人に聞いてみると、それぞれの立場、感情、意見があり、客観的事実として伝えることの重要性を感じているところですね。

また、取材者としての自分の思いを伝えることも大事だと思っています。

**キャスターとしての、今後の目標はありますか？**

私としては、その時々で、自分なりに素直に反応していきたい。キャスターはこうあるべき、という枠に自分をはめるのではなく、わからないときはどんどん質問し、わからないうちはどんどん質問し、一緒に勉強していくスタンスが私には合っているのかなあと

# キャスターの枠に自分をはめるのではなく、わからないときはどんどん質問し、視聴者と一緒に勉強していきたい。

ますか？

今の仕事をやらせていただいたいて、むしろ文系のことをもっとやってあげればよかったなと思いますね。

特に歴史。先ほども暗記はもともと得意ではないとお話したんですが、歴史を覚えるのは本当に苦手でした。

それも、今になって考えれば、歴史はあくまでストーリーであって、暗記モノだと捉えていた考え自体がまちがっていたのだと思いますが、当時の私は、「壬申の乱」の「壬申」や、「封建制度」の「封建」といった言葉の意味がわからず、物語の背景がイメージできなかったんですね。歴史の勉強11年号を覚えることみたいな気がして、それ以上、先に進めなかった苦しい思い出があります。

**今でも歴史にはコンプレックスがある？**

いいえ、逆にいえば、このお仕事をやっているおかげで、偏りがなくなっただけで、バランスが取れてきたのかな？と思っています。

今、「とくダネー」という番組のキャスターをやらせていただいています。政情報番組は本当に幅が広いんです。政

思いますね。

生放送という限られた時間の中で、視聴者のみなさんの疑問が少しでも解消できればいいなという気持ちで、今後も一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

**最後になりましたが、菊川さんから学校の先生にメッセージをお願いします。**

私なんかそんなにおこがましいこととは言えません(笑)。私自身、中学生のときは、授業中も友達のおしゃべりに夢中で、けっこううるさいほうでしたし、怒られもして、先生に迷惑をかけていますから。

それでも個性を尊重してくれる先生が多かったです。どの先生にもお世話になり、見守っていただいたと思います。

また、教え方にしても、先生ごとの個性があり、それを私ごとにかく言うべきではないと思います。

もし言えるのであれば、先生と子どもお互いの気持ちを通じていけば、双方にとって学校生活がいい思い出になるだろうということですね。子どもの側からすれば、先生が一生懸命自分たちのことを考えてくれているんだな、寄り

治・経済もあれば、それこそ歴史も、スポーツ、芸能も、なんでもあり。

自分の知らない言葉が出てくると気になって仕方ないので、チェックしておいて、できる限りあとで調べたり、人に聞いたりするようにしています。検索ツールは、やはりインターネットが多いですね。また、ふだんから新聞や雑誌にもなるべく目を通すようにして、新鮮な情報を取り入れるように心がけています。

今はあまりにも情報が多すぎて、私自身、わからないことだらけで頭がパンクしそうですが、学生時代のようにたくさん時間は使えなくても、わからないことをわからないままにするのではなく、自分の中にクエスチョンを溜めこまないよう気をつけています。

**情報番組の中でも視聴者の立場で素直に反応していきたい**

菊川さんは、現在、キャスターとして、人に伝えるお仕事もされているわけですが、幅広い年齢層の視聴者に対して、ふだんどんなことを心がけていますか？

添ってくれているんだなと思えるだけで、クラスが替わって先生と別れるときや卒業のときに素直に感謝できると思っています。

不器用でもいい、ぶっきらぼうでもいい、子どもを想う気持ちは必ず伝わると思っています。これからはがんばってください！

最後まで笑顔をやさしく、爽やかに質問に答えてくださった菊川さん。豊かな教養に加えて、理論的で柔軟なものへの考え方は、今まさに社会で求められる力そのものだと思います。今後も、さまざまな分野で活躍されることを楽しみにしています。今回は、どうもありがとうございました。



「とくダネ」 毎週月～金 8:00～9:50放送(フジテレビ系)